

アスリートが、医薬品やサプリメントに禁止薬物が含まれていると知らずに使ってしまう“うっかりドーピング”。みどりや薬局（静岡県島田市）を営む薬剤師の清水雅之さんはドーピング違反を疑似体験できるカードゲーム「ドーピングガーディアン」を開発し、アスリートらにその危険性を啓発してきた。切り札は薬剤師カード。使ったプレイヤーだけが裏向きに伏せられた禁止薬物カードを確認することができ、ゲームを優位に進められる。清水さんは「専門家である薬剤師に相談すれば、うっかりドーピングは避けられるということを感じてほしい」とゲームに込めた狙いを語る。

ドーピング違反 カードゲームで啓発

うっかり陽性を疑似体験



薬局経営者でもある清水さん

みどりや薬局
スポーツファーマシスト



清水雅之さん

清水さんはドーピング防止の専門知識を持った薬剤師「スポーツファーマシスト」。2012年に日本アンチ・ドーピング機構（JADA）の認定を受けて、うっかりドーピングの危険性を講演などで啓発してきた。「ドーピングガーディアン」を開発して以来、受動的になりがちだった講演は、能動的な学びにつながる体感型イベントに様変わりした。清水さんは「アンチ・ドーピングの知識を広めていくためには、こうしたエンタメ要素が必要なのでは」と指摘する。

カードは1セット67枚で、参加人数は最大5人。開始前に各プレイヤーに「トレーニングカード（得点）」「病気カード（減点）」「薬カード（減点の無効化）」「サプリメントカード（得点の倍加）」の中からランダムに選んだ3枚と、薬剤師に見立てた「ドーピングガーディアンカード」1枚の計4枚を手札として配布。プレイヤーは1ターンごとに山札からカードを1枚引き、手札から1枚を選んで表向きで

場に出す。10ターン終了時に、場に出ているカードに記載されている数字を得点として計算し、その合計点数を競うというものだ。

点数以外にも勝負を分ける要素がある。それが禁止薬物だ。ゲーム開始時に山札から5枚のカードを無作為に選んで裏向きに伏せる。その中にある薬やサプリメントのカードは禁止薬物となり、10ターン終了時に同じ絵柄のカードを場に出していたプレ

イヤーはドーピング違反で失格となる。

そこでカギを握るのが「ドーピングガーディアンカード」。使ったプレイヤーは裏向きに伏せられた5枚のうち2枚を確認でき、禁止薬物のリスクを避けながらゲームを進められる。

清水さんは「病気を治療するつもりで使った薬が禁止薬物に該当していることもある」と現実になぞ（8ページへ続く）

薬剤師への相談 重要性伝える



新卒生限定 10泊12日 ハワイ研修実施!

入社後すぐ!

関西圏を中心に全国へオレンジ・元気薬局を展開

初年度年収 **450~550万**



希望エリアでの勤務OK! 働き方次第で高収入も可能! あなたの頑張りを評価します

グループ会社多数! (株)プチファーマシスト (株)オレンジファーマシー
全国に130店舗展開中 (株)東京オレンジ薬局 (株)けやき (株)ファミリー薬局

インターンシップ参加者募集

オレンジ・元気薬局

検索



薬剤師 国家試験 対策.com

薬剤師を目指す薬学生のための
国家試験対策支援サイトです



ご登録・ご利用完全無料

be89314

検索